

大会アピール

人と人が触れ合う機会を奪った新型コロナウイルス感染症が5類に移行したとはいえ、インフルエンザの急激な流行と併せ、依然として心配な状況下にあります。育成会活動は徐々に以前の状態に戻りつつあると思います。

このような中、節目となる第60回長野県手をつなぐ育成会大会を、関係者が一堂に会して開催できることは、無上の慶びと言っても決して過言ではありません。

知的障害のある人と、その家族が地域で暮らして行く為には、それぞれの地域全体で、共に支え・共に支えられる『共助』を再構築して行くことこそが、今、最も求められているのではないのでしょうか。

『障害があっても、その人らしい暮らし振りとは、如何に？』

『知的障害のある我が子らの行く末は、如何に？』

『親なき後の暮らしは、如何に？』

本大会に集う皆が、日頃から抱えている様々な課題や思いを出し合い、話し合い、そして明日に向かって踏み出す新たな一步の糧になることを願い、以下の項目について進めて行くことを宣言します。

- 一、 地域で暮らし続ける為の切れ目のない支援体制の充実を求めて行きます。
- 二、 地域社会から差別等を無くして行く為の活動を推進して行きます。
- 三、 地域社会における育成会を再認識しての活動を進めて行きます。

令和5年10月29日

第60回 長野県手をつなぐ育成会 大会